

【実践報告】

地域住民が看護学生に期待すること

地域住民健康教育プログラム実践報告①

田中 健太郎, 阿部 誠人, 瀬瀬 朋弥, 小林 和成, 松波 美紀
岐阜大学医学部看護学科

要旨

本論は、医学部看護学科で平成 28 年度から実施している『社会貢献部会』の取り組みの中から、地域住民の方々を対象にした『地域住民健康教育プログラム』に関する実践報告である。今回の取り組みは、地域住民健康教育プログラムにおける初の看護学生主体による社会活動であり、学生が地域に赴き、看護学生に対する期待など、住民の方々から直接意見を聞くために実施した。結果、199 名から聞き取りを行い、看護学生に対する励ましや地域での活動に関する期待、活動に参加したことで得られた学生自身の学びなども多数あり、本活動への参加が今後の学習意欲の向上にも繋がるきっかけになったと考える。

キーワード：地域住民, 看護学生, 社会活動, モチベーション, 社会人基礎力

1. はじめに

岐阜大学医学部看護学科社会貢献部会とは

岐阜大学医学部看護学科では、平成 28 年度に『社会貢献部会』を発足させ、看護学科の魅力を地域に発信し、学生による主体的な社会貢献の実施を目指し、活動を行っている。また、本部会には 5 つのプログラムが存在し、在校生や卒業生への支援のみならず、現役看護師を対象にした研修会や、これから看護師を目指す学生への働きかけ、地域住民を巻き込んだ取り組み等を実施している。

社会貢献部会発足の背景

本部会の活動が始まった背景には、本学科の魅力を地域社会に広く発信することに加え、高齢社会が進展する中で、保健医療を担う看護職員の確保が岐阜県内でも大きな課題となっており、その現状に危機感を持ったことが背景にある。そのため、看護師の定着化や看護の質の向上に向け取り組んでいくことは、岐阜県で看護教育に携わる者としての大きな使

命であり、教員や学生のみならず地域住民の方々を巻き込んだ活動を展開することが非常に重要であると考えたため、本部会を発足した経緯がある。

地域住民が抱く看護学生への思いについて

少子高齢化の進展に伴い、人口構造が変化し、医療費や社会保障給付費は増加の一途を辿っている。また、保健・医療・福祉を支える財源がひっ迫する中、各種制度を支える人的資源も海外からの人材に頼らざるを得ない状況になりつつあり²⁾、これらの制度が抱えている課題は非常に大きい。一方で、従来の病院完結型の医療・ケアから、住み慣れた地域で保健・医療・福祉が一体となった『地域包括ケア』³⁾の実現に向け、保健・医療・福祉への期待とニーズは年々高まっており、課題への取り組みと多様化・複雑化する地域でのケアの実現に向けた、難しい舵取りを迫られている現状がある。更に、療養の場が医療機関から人々の身近な生活の場（地域）に移行する中で、医療と生活を視点に入れたサポートが必要となり、人々が持つ信念や価値観とどのように向き合い、最後まで自分らしく生きていけるように支援していくかが、今後の地域医療の取り組みとして重要になってくる。

このように、保健・医療・福祉を取り巻く環境が大きく変化する中、人々の生活と医療をトータルに把握し、ケアを提供することが出来る『看護』が果たす役割や機能は非常に大きく、地域包括ケアを支える重要な存在であることは言うまでもない。しかしながら、地域の人々にとって看護とは、疾病や障がいが生じた時に初めて出会うため、決して身近な存在であるとは言えない。また、地域包括ケアの重要性が高まってはいるが、当事者である地域の人々が看護に対し、どのような思いを抱き、関心を寄せているのか、看護教育を行う私達と認識の違いに差が生じている可能性がある。まして、これから地域医療を支えるキーパーソンである、看護学生に対する思いや期待などについては、これまで直接的に話しを聞く機会はなく、その実情についても不明確な部分が多い。そのため今回は、将来の看護を支える看護学生に対し、地域住民の方がどのような思いを持ち、関心を寄せているのか、看護学生が自ら地域に赴き、実情を捉えるべく、活動を実施した。

今回の実践報告について

これまで2年間、社会貢献部会として活動を行ってきたが、本部会が実施している、5つのプログラムの中でも、今回は地域住民の方々を対象に行っている『地域住民健康教育プログラム』について報告を行う。

本プログラムは、教員や学生が地域住民の方々との交流を通じ、地域の方々に看護に対する理解を深めていただくとともに、本学科が有する人材や教育研究活動の成果等を個人・集団・コミュニティ等に活用してもらい、健康の維持・増進に寄与することを目的としている。また、学生にとっても、学外での社会活動や体験学習が、豊かな人間性や社会性を育み、今後、看護職として人々の生活や健康を支える専門職としての基盤を培う機会になることを願い、本プログラムを展開している。

今回の報告では、本プログラムとして初めて看護学生が地域に赴き、直接地域住民の方と話をし、聞き取った内容についてまとめると共に、活動に参加して得られた学生の学びについて報告を行う。

2. 実践内容

1) 事前準備

今回聞き取りに参加した学生は、1年次生1名、2年次生1名、3年次生6名の計8名であり、活動内容の説明や注意事項等について、実施前と当日の2回にわたり、打ち合わせを行った。特に、学生にとっては、地域に出て直接住民の方と話す初めての機会であり、聞き取る内容や手順について繰り返し確認を行い、住民の方にとって、出来るだけ負担が少なくなるように準備を行った。

2) 活動当日

2018年3月2日(金)13:00~17:00, JR岐阜駅北側にて高校生以上の地域住民を対象に、『看護学生に期待すること』や『学生が地域で活動できる場』などについて、聞き取りを行った(『学生が活動できる場』については実践報告②参照)。延べ4時間の聞き取りであったが、199名の方から回答を得た。当日は聞き取りに参加した学生8名に加え、教員4名も活動に参加した。

3) 聞き取り内容

回答頂いた方々の属性は表1の通りであり、活動に参加して得られた学生の学びについては表2、住民の方々から得られた看護学生への期待については表3、に示す通りであった。

聞き取りに協力頂いた方々の内訳は、30~50歳代の方が全体の25%程度にとどまり、60歳以上の方が約40%となっていた。

活動に参加した学生からは、地域に赴き直接住民の方々に聞き取りが出来たことを肯定的に捉える意見が多く、学生に対する優しさや温かさを実感することができ、今後の学習意欲を高める経験になったと、振り返っていた。

また、看護学生に期待する内容を大別した結果、『励まし・応援』『地域・社会』『資質』『知識・実践能力』『看護倫理』『コミュニケーション』『その他』に分類でき、『励まし・応援』以上に、『地域・社会』に関連する内容が多く認められていた。なお、聞き取り内容のまとめ(集計)についても、学生自ら行った。

表1. 基本属性 (有効回答数n=192)

		n	%			n	%
性別	男性	73	38.2	職業*1	会社員	22	11.5
	女性	118	61.8		公務員	3	1.6
年齢区分	20歳未満	43	22.4		団体職員	5	2.6
	20歳代	26	13.5		自営業	8	4.2
	30歳代	16	8.3		学生	55	28.6
	40歳代	18	9.4		パート・アルバイト	28	14.6
	50歳代	11	5.7		働いていない	62	32.3
	60歳代	28	14.6		その他	10	5.2
	70歳代	36	18.8		居住地域	岐阜市	125
	80歳代	14	7.3	岐阜市以外		65	34.2
				居住年数*2	5年未満	23	18.6
					5年以上10年未満	5	4.0
					10年以上	96	77.4

*1：複数回答あり

*2：岐阜市在住者のみ

表2. 活動に参加して得られた学生の学び

- ・平日の岐阜駅周辺で活動している人たちの実態を知ることができた。また、どのようにして話を聞くと相手に不快を与えず協力していただくことができるのかを実感をもって学ぶことができた。
- ・住民の方への聞き取りは初めての経験で勉強になった。また、このような機会があれば参加したい。
- ・地域住民の方々が看護学科や看護学生に望むこと、また地域に望むことについて一人一人と話をすることで知ることができた。
- ・実際に地域に住む方々と直接触れ合うことの大切さを学ぶことができた。
- ・お話を聞いていただいた住民の方々の優しさやあたたかさを肌で感じることができた。
- ・聞き取りを通し、多くの人が健康に興味を持っていることが分かり看護を勉強するモチベーションがより上がったと思う。
- ・初対面の地域の方々と関わらせていただく機会は今までなかったため、よい経験になった。

表3. 看護学生に期待すること

項目	記載内容	項目	記載内容
励まし・応援	お年寄りや病に伏せている方のために頑張ってください 将来仲良く働きましょう 志を忘れず 優しい温かい看護 よいナースになってほしい 年寄りが多いで期待している しっかり岐阜の日本の看護生として頑張ってください 立派な職業人になってほしい これからの重要な仕事だと思えます 看護師は熱心だからそうなって欲しい 頼りにしている。痛んだ時は天使。笑顔が一番 自殺だけはやめて下さい。あまり頑張らないで下さい 立派な看護師になってほしい 高齢者をもっと自立させる 高齢者は人の話を聞かないため我慢してください、高齢者は先輩です、未来の自分としてみてほしい	知識・実践能力	実践力 接し方を勉強してほしい ナースが少ないから勉強してほしい 精神的支えになってほしい 適切なアドバイスと笑顔 ある程度知識があって、何か起きた時はすぐに助けられる人 正確な処置ができること、話がしたいと思える人、気が許せる 自分の個性を大切に困っている人や助けてほしい人にやさしい気持ちをもってしっかり勉強
		看護倫理	患者に寄り添える看護師 真心こめた交流、メンタルなことも重点、少し優遇してあげる 患者さんに親切、思いやり 患者さんに寄り添う 患者さんのことをないがしろにしないこと
		コミュニケーション	コミュニケーションの取り方
地域・社会	地域で頑張してほしい 地元に残ってほしい お年寄り等とイベントで関わってほしい 地域の医療、特に高齢者福祉 社会貢献という意味で地域住民との交流時に医療に関する情報を提供してあげるとよいと思います 介護現場に目を向けて これからの高齢化社会の対応について 地域の病院で活動 介護など 地域とのかかわりを持つ 高齢者に優しい社会づくり 在宅看護 学校で学んだことを地域に広めて欲しい 地方の病院協力 岐阜県に残って欲しい 大学病院との連携 地元の病院で活躍してほしい 県内での就職 地域の医療の基となってほしい 地域医療に根付いてほしい	その他	時間なく判断してほしい 研究や調査の結果を自分の地域だけのものにせず、全国に発信してほしい。アンケート調査の結果を正しい知識で実務につなげてほしい これからの医療に貢献していただきたいです 大学病院で外来患者に関わって欲しい 高齢者が増えていく中で施設や機会を上手に使うって労力をあまり使わずにサポートしていただくのが大事だと思う 気軽に健康相談 予防的看護への取り組み 看護の良さをアピールして欲しい 具体的にどう活動しているか見えにくい 救急医療、災害対策 しっかり学んでくれるだけでありがたい 多様化していく体制への対応 免許をとって社会で活躍するように 資格を有意義に 健康チェック 良い人材を育ててほしい
資質	優しい雰囲気、説明してくれる、てきぱきとした仕事 優しく高齢者に接している。患者に優しく良い印象 優しく話しやすい人 信頼される人 優しさ 思いやりのある看護 心を大事にする、優しく接する		

3. まとめ

今回の取り組みは、平成28年度より始まった、社会貢献部会地域住民健康教育プログラ

ムにおける、初の学生主体による社会活動であったが、地域住民からの聞き取りの結果、これまで把握することが出来ていなかった貴重な情報を得ることが出来た。

まず、活動に参加した学生自身の学びについて、事後の感想から様々な学びにつながったことが明らかとなった。特に、他者に働きかける力や相手の意見を丁寧に聴く力（傾聴力）、初めてのことに取り組む力（主体性）などは、看護職として大切な社会人基礎力⁴⁾であり、その基礎力を育むきっかけとなった今回の活動は、学生自身にとっても、非常に有益な体験だったと言える。

また、地域住民の方々から得られた看護学生への期待については、これまで直接的に住民の方から伺う機会はなく、どのような思いを持ち、関心を寄せているのか、不明確な部分も多かった。聞き取りの結果、多くは学生への励ましの言葉であったが、「将来県内の病院での就職」や「地域に貢献できる看護職になって欲しい」という期待は、地域住民の率直な意見であり、切実な願いでもあると思われる。また、専門職として「確かな知識・技術を身につけて欲しい」などの意見もあり、学生は直接住民の方から声を聴く貴重な機会となっただけでなく、看護を学ぶモチベーションの向上にも繋がったと考える。

近年、インターネットやスマートフォンの普及により、ソーシャル・ネットワーキング・サービスでのやり取りが増える中、人と直接的な交流がなくても日常生活を送ってしまう現状がある。また、これらの社会背景と関連し、コミュニケーションが取れない、人間関係構築の難しさなどが社会問題となる中、自ら課題を見つけ、主体的に行動が取れ、他者と協同する力を持つ人材をいかに輩出していくかは、今日の大学教育において、全学的な課題でもあるとも言える。特に、人を相手に仕事を行う看護職は基礎学力や専門知識に加え、高い対人関係能力が求められる。しかし、現代社会において、豊かな人間性や社会性を身につけていくことが難しくなる中、看護教育の中でこれらの能力を培い、職業人として社会に踏み出せる力をいかに修得させるかが、看護教育に携わるものに課された大きな課題でもあった。

このような中、本学科として新たな取り組みとして始めた社会貢献部会による地域住民健康教育プログラムは、今後の学生教育に一石を投じる内容だったのではないかと考える。

初めて会う人に、聞き取り内容の趣旨をわかりやすく説明する力（発信力）、年代の異なる人への対応力（柔軟性）、相手の立場を理解する力（状況判断力）など、今回の聞き取りの中で用いた個々の力は、まさに看護職として大切な能力であり、その能力の重要性に気づき、学ぶきっかけになったことは、学生にとっても非常に有益なものであったと考える。但し、今回のような活動に自ら参加の意思を示し、参加した学生は、そもそも対人関係能力が高い可能性がある。そのため、今後はプログラムに参加する学生の裾野を広げることが、新たな課題であり、今後も継続して活動を行っていくためにも、学生への呼びかけや広報など周知方法の工夫、社会活動や社会貢献を行うことが当たり前となる風土づくりなど、活動を支える基盤整備に力を入れていく必要がある。特に、入学時から学生を巻き込んだ取り組みが必要であり、継続して参加出来るような体制づくりが求められる。そのためにも、今回得

られた多くの情報をもとに、学生への教育の充実や看護職の専門性を活かした地域活動のあり方を検討し、今後も継続した活動を行っていただけるよう、看護学科を挙げて取り組んでいきたい。

最後に、本活動は平成28・29年度岐阜県看護学生等県内定着促進事業費補助金ならびに平成29年度岐阜大学活性化経費（地域連携）の支援を受け行っている。

4. 謝辞

お忙しい中、学生の質問に足を止め、ご回答頂きました地域住民の皆様に、心より感謝申し上げます。

【参考文献】

- 1) 看護職輝き輝き（イキイキ）プロジェクト 平成29年度 岐阜大学医学部看護学科活動報告 社会貢献部会
- 2) 2025年に向けた看護の挑戦 看護の将来ビジョン～いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護～ 公益社団法人 日本看護協会
- 3) 三菱UFJ リサーチ&コンサルティング（2016）『地域包括ケアシステムと地域マネジメント』
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12400000-Hokenkyoku/0000126435.pdf>
- 4) 箕浦とき子・高橋恵（2016）『看護職としての社会人基礎力の育て方』日本看護協会出版会